

藝 學

Sept.~Oct. 1948

- 中國歴史學の發展……内藤虎次郎・1
 馮京第と蘭の研究……上野實朗・18
 辛亥斷髮令餘聞……稻生典太郎・21
 いもの話……田中克己・26
 バンコック托鉢記……佐々木教悟・32
 古印の鑑賞について……神田喜一郎・37
 墓石の起源……宮本常一・44

秋田屋

40

昭和十八年七月六日第三種郵便物認可
 昭和二十三年八月二十五日印刷本
 昭和二十三年九月二日發行

藝

第五卷

第六號

通卷

第四〇號

定價

金貳拾五圓

日新化學工業株式會社

硫安、過燐酸、其他化學肥料
 工業藥品、醫藥、染料

大阪市東區北濱五丁目二二

關西汽船株式會社

所有船舶 九〇隻
 經營航路 三八線

本社 大阪市北區宗是町一 電土佐堀三五―一
 取締役社長 神田外茂夫
 支店 東京・大阪・神戸・洲本・高松・松山・廣島
 出張所 門司・別府・德島・高知・宇和島・尾道

明治紅茶

現代の娑婆苦はわれ／＼からあらゆるものを奪つたが、どこかでほのほのと、たえなるなつかしい香りのするのは明治紅茶のかおりだらう。

明治製菓株式會社
 東京・京橋二ノ八

銀行業務併營

富士信託銀行

住友信託改稱

大阪市東區北濱五丁目

食糧の乏しかつた期間は何年つゝいたことだらう。今年
は世界的な大豊作だとの報で胸を撫でおろす。それにし
てもこの數年間お世話になつたイモのことを記して置きたい
と思ふ。

イモといふとすぐ腦裏に浮ぶのだけでも、およそ五種類
ある。キクイモ、ヤマノイモ、サトイモ、ジャガイモ、サ
ツマイモがこれである。

キクイモは菊科のヘリアンサスのたぐひで秋に黄色な花
の咲く、高さ二三米、莖にかたい毛のあるやつで、私も子
供のころには、方々の畑の隅などに植ゑてあるのを見た記
憶がある。英名はジェルサレム・アーチチョーク *Jerusalem artichoke* またはキャナダ・ポテト *Canada potato* であ
る。敗戦後、天津の舊日本租界にゐた私は、することもな
く、退屈まぎれに手近かにあつた木を片つばしから讀んで

ゐたが、ひまつぶしとしては、平凡社の百科大辭典が和漢
洋の諸書の中で一等役立つた。アからはじめてキの欄まで
来て、キクイモの項を見るに至つて、これあるかなと思は
ず膝を叩いた。この草のイモから砂糖より三倍あまいもの
がとれ、しかも二〇噸から砂糖一〇噸がとれるといふ
のである。いまのやうに砂糖の代替配給で苦しむことなど
もとより思ひもよらず、米軍の上陸用舟艇で内地へかへし
てもらへることも確定しなかつたが、幸ひに内地へ歸れ
れば、これを植ゑて、臺灣を失つた日本の砂糖飢饉を救つ
てやらうとの念願を起したのである。ところで歸宅すると
砂糖はまだ缺乏してゐたが、聞ならないこともない。その
うへ耕すべき地もなく、またキクイモの株を一向に見かけ
ないので、私のこの企業計畫も終りを告げた。たゞし一度
新聞紙上でキクイモ栽培を呼びかける廣告を見たが、その

成否を知らない。同志の人もあるものだとその時は感心し
た。

次はヤマノイモである。これはキクイモとちがつて、わ
が國にも神代以來あることはまちがひないが、食料として
はあまり役立たなかつたか、五穀の中に數へられないのは
當然としても、古書にあまり見えない。たゞ古事記、日本
書紀にそれ／＼一ヶ所づゝ見える。古事記の記事は、御承
知のごとく、日本武尊が能褒野で薨ぜられたあと、大和か
ら急遽かけつけられた妃やみこたちの哭泣のうたとして、
「靡附の、田の稻幹に、稻幹に、蔓延廻るふ、ところづら」
といふのがあり、このトコロヅラがヤマノイモのことであ
る。しかし蔓が蔓延することを特徴としてとらへただけで
食料としての點はとらへてない。

日本書紀の方は、武烈天皇の悪虐として記したことの中
に、「一人のなまつめをぬきて薯預を掘らしむ」といふ箇所が
ある。ヤマノイモを掘つたことのある人のよく知ることく
土の中ふかく入つてゐるイモを爪をはがした指で掘らすこ
とが、いかほどむごいかと記してゐるのである。武烈紀の
この箇所は、先人が指摘してゐる通り、おそらく百濟記の

まぎれこんだのであらうか、ひよつとすると、漢土三韓と
もに日本より見れば文化的な先進國家である、その兩國と
もに有した悪虐の君が、わが國にもなかるべからず、との
觀念から武烈天皇には甚だお氣の毒ながら、悪名をかぶせ
奉るべく、これらの記事が出来たのではないかと考へら
れる。ヤマノイモの食用のことは、この書紀の記事によつ
て、掘るための甚しい困難をかへりみず、この時代の日
本人が行つてゐたことが知られるし、平安時代に入ると、
芥川龍之介の小説「芋粥」のもととなつた今昔物語の中の
話などがあつて、當時の人に好まれたことが知られる。

書紀が用ゐた薯預、または薯預が漢土のこのイモに對す
る名稱であるが、明末の謝肇淛の著なる「五雜俎」による
と、宋の英宗皇帝の名が曙であつたところから、諱んで山
薬といふ漢名で呼ぶやうになつたといふ。英宗皇帝は王安
石や蘇東坡などの出た時代の皇帝である。しかし蘇東坡の
詩集を檢すると、彼が海南島へ流されてからの作なる「和
陶劉柴桑」といふ詩は「紅薯と紫芋ト、遠ク挿ム牆ノ四
周」の句ではじまる。彼の假住ひのまはりに薯と芋とを植
ゑてゐることを云つてゐるのであるが、薯と同音だらうと
思ふ諸の字を別に諱んでもゐないので、「五雜俎」の説も怪

紀

しい。また「和陶勸農」といふ詩の引にも「海南島には荒田が多く、土俗は香料の貿易をもつて主なる業としてゐる。土地に産する米穀だけでは食ふに足りないので、みな諸芋や雑穀で粥を作つて腹をみたしてゐる」とある。この諸は紅薯と呼ばれるのであるから、わが國のヤマノイモと全然同じものではないが、同屬のものにちがひない。

ヤマノイモがよみこまれてゐる詩の中では杜甫の「發秦州」の方がさらにすぐれてゐる。杜甫は安祿山の叛亂後、つぶさに艱難辛苦をなめたが、忠誠がみとめられて左拾遺といふ官に任じられた。しかし詩人が吏務に適するはずもなく、華州司功といふ地方官になつたあと、その地方の飢饉にゐたゞまれなくなり、官を棄てて秦州にゆき、こゝも食糧が足りないといふので、さらに南の同谷縣へ向ふのである。詩の前半は次のやうである。

我衰更癯拙 わしは衰弱してゐるうへになまけもので
生事不自謀 生計を自分で立てやうとしない
無食問樂土 食ひものがないので樂土をたづね
無衣思南州 着物がなくて南の州をおもふ
漢源十月交 漢水の源は初冬十月のころも
天氣降如秋 氣候がまるで秋のやうである

稱にはこれと近い語をもつてゐないから、これはたゞ偶然的近似としてよろしからう。朝鮮語では、ナガイモの呼稱として、漢語の薯藥、山芋、山藥のほかに、マといふものがある由(村田懋麿氏「土名對照鮮滿植物字彙」)、いつそこらにむすびつけたくなるが、これもいまのところ遠慮してをかう。

三番目はサトイモ。これは或ひは外來のものかとの疑ひが存するが、既に日本化してヤマノイモよりよく口に入る。南方のタロ芋のたぐひで、漢名は芋子、芋頭、土芋、土豆子と、大體において芋の字で表はす。東坡の詩にも見えた。「説文」では「葉が大きく、根が實になつてゐて、人をびつくりさせるので芋といふ」とある。ウは驚きの間投詞であるといふのである。漢土では古くから栽培され、飢饉の時の代用食となつたことは申すまでもない。「夷門廣牘」に收める曾勉之の「芋經」から引くと、袁安は陰平の邑長となつて飢饉にあひ、税としての米麥が納められないので、芋で代納を許し、「百姓が飢えてくるしんでゐるのに、長たるものが穀物が食へるか」といつて、自らは芋を食つたといふ。どこかの國の食糧公團や役人どもに聞かせ

草木未黃落 草木の葉はまだみびして落ちないといふ

况聞山水幽 景色がおくぶかいと聞いた

栗亭名更佳 栗亭といふ名がまたよく

下有良田疇 下には良い田圃がある

充腸多薯蕷 腹を一杯にするにはヤマノイモが多くあり

崖蜜亦易求 崖の蜂蜜も手に入れやすい

密竹復冬筍 しげつた竹からは冬また筍がとれ

清池可方舟 清い池には舟をうかべられる

栗亭鎮の栗といふ字にひかれ、ヤマノイモや蜂蜜やたけのこが手に入るといふので、故郷や都からさらに遠い邊僻の地へうつるのである。あはれなものではないか。

このヤマノイモが五種のイモの中では、わが國古來からあるものだといふことは、前にいつた。サトイモが里で栽培されるまでは、イモといへばこれのことであつたらう。萬葉集ではウモといふ、ウモ、イモ、どちらが古いかはしらず、これをマレー語のタロ芋、ヤム芋を呼ぶウビモとむすびつけたくなると、新村出博士もいつておゐるであらう。mとbとの音の近さから、當然のことであるが、我々一二等近いインドネシア人たる高砂族でさへも、イモの呼

たい話である。また薛全は父の塚のかたはらに稻と芋とを植えた。稻は父を祭ることの用、芋は自分の食用といふのである。イモが米より喜ばれないことは、漢土も同じことであらう。

四番目はジャガイモ。馬鈴薯といふ漢字をあてるのはよくないと、牧野富太郎博士がいつておゐるのである。ジャガタラから渡來するオランダ船がもつて來たので、この名が附いたと見てまちがひはない。英語のポテトはスペイン語のbatata patataと同じく、原産地に近いハイチ語のbatata batata から來たのであらうが、獨逸語のカルトッフェル Kartoffel がロシア語カルトフエリ kartofel のもとになつたことはわかりながら、語原がわかり申さぬので、畏友服部正巳君に伺ひを立てると、イタリー語のタルトッフォロ tartufo のtがダブルのをきらつての轉訛と説明してくれた。たゞしイタリー語の語原をきくひまはなかつた。獨逸語では御承知の如く、エルドアップフェル Erdapfel (土芋果) の名もあるが、これは佛蘭西語のポム・ドゥ・テル pomme de terre の譯だらう。さてジャガイモの原産地はといふと、御承知の通りアメリカであるが、アメリカといつても廣い。そのどこかとい

ふことになる。はつきりしない。一九二七年ニューヨーク版の『The New International Encyclopaedia』によると、熱帯及び亞熱帯アメリカのチリーからメキシコへ亘る山地の原産とす。『The Oxford English Dictionary』(一九三三年版)では少しせまくなつて、南米の太平洋斜面の原産といふ。原産地のことはいくらもにしておいて、いつヨーロッパへ来たのかといふことでは、私の抱いてゐた傳説がオクスフォード辭典でひつくりかへされたから、こゝに傳へておく。すなはちウォーター・ローリーが北米のヴァージニアから一六九三年に傳へたといふ通説はうそで、第一ローリーはヴァージニアへ行つたことがないといふのである。しかしこの説は早くひろまつてヴァージニア・ポテトと呼ばれたものの、ヴァージニアにジャガイモが栽培され出したのは十六世紀以後だつたと。ヨーロッパにこの名をはじめて傳へたのは、一五五三年のピエドロ・シエサ Pedro Cieza de Leon 記 (『Cronica de Peru』) 實物を傳へたのは一五八〇年にキト Quito がスペインにもつて来たのをはじめとする。イギリスには一五九六年にジェラードがはじめて植ゑたが、前述のヴァージニアのもの誤稱は彼のせいだと、みなオクスフォード辭典の受け賣りをして置く。はじめは珍らしいものとして、各國

ともに庭園に植ゑ、次いで家畜の飼料とし、主食代用として用ゐられるやうになつたのは随分あとで、ヨーロッパ各國に廣く栽培されるやうになつたのは、やうやく十八世紀の中頃からだといふ。漢土ではこれを荷蘭薯、洋芋(四川方言)などと呼んで傳來を明らかにすること、わが國と同じ。マレー語ではウビ・ブングラ(ベンガル芋)と呼んで、また西の印度のベングアル地方までもつてゆく。海船往來のさまをあらはして素人言語學者もなか／＼たのしい。

最後にサツマイモ。薩摩では琉球イモといふ由は、たしかめないでおぼえてゐる。わが國への渡來のことは、みな御承知のことゆゑやめにして、朝鮮へはたしかにわが國から傳はつた。村田氏に據れば、甘藷、南甘藷、南藷の名のほかに、コクマといふのがあつてこれは孝行イモの訛、通信使趙曠が對馬の佐須奈から、種イモとともに名をもつて歸つたと。およそ百七八十年まへのことである。そのうち方々で植ゑられたが、大院君が栽培しやすところから農民が米麥の代りに作るとして、これを禁じたので、それ以來、栽培が衰へたといふ。漢土では番薯、紅薯、地瓜、紅苕(四川方言)のたぐひ

組

で呼ぶ。番は蕃と同じく、海外の蕃人の傳へたことを表はす。傳はつたのは、従つて明末より早くはないので、甘藷といふ名で、それ以前に見えるのは、全く類を異にしたヤマノイモの甘味の多いやつであらう。牧野博士にならつて甘藷といふ漢字でサツマイモを表はすことに反對しておくが、漢字制限でその必要もないかしらん。

さて渡來の日時はわからぬながら、まづ廣東、福建、浙江方面に明末に來たことはたしかで、前にも引いた「五雜俎」は明の萬曆末(一六二〇年頃)、福建の生れたる謝肇淪の著であるが、「百穀のほかに、穀物の代用になるものがある。芋(サトイモ)、薯蕷(ヤマノイモ)がこれであるが、福建には蕃藷があつて、山藥(ヤマノイモ)に似て、肥えて甘いこと、これにまさり、砂地に植ゑると生長しやすきはめて繁殖する。飢饉の年には人民は多くこれに頼つて

生きのびる。この植物は北方でも植ゑられる」といひ、青木昆陽先生の「蕃藷考」もこれを引いてゐる。わが國へは琉球を仲介として、おそらくこの福建の種イモが傳はつたのであらう。

サツマイモの原産地はジャガイモ以上不明である。例の新國際百科辭典なども「原産地には二説あり、東印度といひ、アメリカといふ」といつてゐる。ジャガイモの原産地

をジャバといふものはないのに反し、サツマイモにはジャバ方面が原産地かも知れないとの説があるのである。オクスフォード辭典は「原産地は不明、西印度でスペイン人によつて一五〇〇年に發見された」といふ。しかし一般に西洋人はオサツよりジャガの方がお好きだと見えて、これに關しては冷淡である。新村先生によると、沙翁の Merry wives of Winsor に出て來るイモはこの方のことで、これには媚藥的效能のあることが信じられてゐたといふゆゑ一層いふのをはかるのかも知れない。ジャバ語はこのイモに關して無数の細かい區分をしてゐるから、ひよつとしたりジャバ原産かもしれないとも私は考へてゐる。

英語ではスイート・ポテト、獨逸語も同じく甘イモであるが、ロシア語はバタート Batat でハイチ語から來たスペイン語の、タータはこゝへつながつてゐる。清の乾隆年間に出來た「甘藷詩集」といふ書は書肆の廣告で名だけ見た。イモのことは詩になるかいなか、見たくてたまらないので、女房に相談すると「あなたはイモのお値段もご存じないでせう」と叱られたのが去年、ことしはどうやら安いらしいが、食ふ氣もしないほど贅澤になつた。たゞし女どもは相變らず食べるだらう。イモの煮えたもご存じない御亭主はこの邊で擱筆さしていただきます。

く世界として海の彼方にニライカナイを考えた。

どうして、どこからあたらしい考え方が流れ込
んで来たのか、または考えつくようになって来た
のか、人々の死やたましいについての考えは色々
にかわつて来ているようである。死者のためにタ
マヤを設けることも、場合によれば、古墳の埴輪
の家にまでさかのぼられるのではなからうか。九
州南部では死者をうずめた上には必ずタマヤをお
いている。切妻のものもあれば奥型のものもある。
併したましいがいつまでもそこに居るものとは考
えなかつたようで、屋久島では葬式をした翌朝、
まだほのぐらくて他の鳥の来ないうちに、墓地へ
行つてタマヤの中に足あとがついているかどうか
を見る。新しい土の上に足跡があればたましいは
鳥になつて先島の方へとんで行つたのだと信じら
れて居り、跡のついていない時はこの世に未練が
あつて往生しきれずに居るともいう。このタマヤ
は墓のたてられるまでそのままにしておく。櫻島
などでは墓石がつくれられてもタマヤが上に作つて
あるのを見かけた。このようなタマヤは四國の北
海岸、瀬戸内海、中國地方などにも所々に散在し
て残存して居るが關東東北ではあまり見かけない
ようである。木製のものの外、茅などで編んだこ

もでかんたんに作つたものも少くない。ほんの
時的なものになつてしまつて居るが、もとはもつ
と恒久的なものではなかつたかと思われる。

長野縣伊那谷では古い墓はすべて石のホコラ型
のものであつた。四百年をこえるもので墓石を持
つものは殆どないという。三河のあたりでも草分
けの先祖をまつる御主様とよばれるものは石製
のほらが多かつた。もとは丹波の山中などにも行
われていたようである。

いそその分布は廣く、瀬戸内海の島々にまで
見られた。更に奄美大島、喜界島あたりまでも元
祿以前の墓はホコラ型のものであつたという。之
等の島々ではこのホコラ型の墓と共に風葬の洞窟
が存在したのである。そしてこの島の墓と、瀬戸
内海伊吹島の古い墓との形式のあまりにも近いの
に、南島出身の岩倉市郎氏はおどろいていた事が
あつたが、たましいは當世に去ると信じつても前
こうしてまつらずには居られなかつたのには別の
原因があつたのであろう。

それが今日のような墓石になるまでにはまた一
つの變遷があつた。關東から東北にかけては鎌倉
時代以來、しきりに供養碑をたてて居る。もとは
戦のために死んだたましいをなぐさめるためのも
のであつたと思われるが、後には子がなき親たち

の年忌に供養のためにたてたものらしい。岩手縣
江刺郡磐石村の嘉慶元年のものなどは「法阿彌門
成佛得道」とあり、この外にも「入佛道」「得道」
をきざんだものをいくつも見かける。そして之等
の碑はその三十三回忌にたてたものが少くないよ
うで「右意者經父三十三年故世」(西興井郡日形
村)などあるものがあり、しまいに孝子敬曰と
記している。

今の墓がこうして不慮の死にあつたものの供養
にはじめて、年忌供養の記念にたてたものではあ
る名残は死後、一年三年又は七年、長きは十二年
の年忌に墓石をたてる習俗の廣く分布して居るの
を見て察せられる。

そして國の中は墓石ばかり多くなつて居る
いるが、之が古くからの國ぶりではなかつた事は、
僅かばかりの反省によつても知り得る。そしてそ
の墓石の年號の一つ一つを見ては江戸時代以前の
ものは何程もない。我々の名はこうして石にまで
きざみつけて残すほどの価値あるものでもなさそ
うである。我々は我々のした仕事に人々に記憶せ
られるものでありたい。そしてそれがよき墓標で
あらうとは、おびただしい墓石の群を見るたびに
しみじみ思うのである。

(三三、五、二八)

學藝談話室

□内藤乾吉氏の御厚意によつて湖南
先生の御遺稿をいただくことがで
た。題目は編輯者においでかりに
つけたのである。中國の史書の性質を
これほど簡明に發展的に説いたもの
は他に類がないと思ふ。いはゆる内
藤史學の真髓なるものをここにみる
やうな気がする。後人の諸々の史學
史論はみなかうしたところからヒ
ントを得られたものだ。それにつけて
も早く先生の「中國史學史」の公刊
が待望されるわけである。

□上野氏の馮京第と蘭の研究、稻生
氏の辛亥斷髮令條聞、いつれも一寸
毛色の變つたものである。上野氏は
東大の東洋史を卒業して現在京大理
學部植物學教室におられ、近く牡丹
と芍薬との分類に關する歴史的研究
を発表される。稻生氏にはなほ注
があつて、宣統三年十月三日の時報
所載、李文熙の斷髮實行を讀ぶた上
奏文をあげ、日華貿易上あらはれ
大異變については、外務省通商局
第一通商會議「號外の明治四十四年
清國事變の經濟界に及ぼす影響なる
文獻を補綴本としてあげてをられる

が、紙數の都合で割愛したことをお
ことわりしておく。

□ハンコック托鉢記はこれで完結、
五月號には筆者名を誤つて敬悟と印
刷して失禮してしまつた。神田先生
のは一昨年十月が東方學術協會が
主催して、東方文化研究所で古印譜
の大展覽會をやつた際の講演筆記に
手を入れ下つたものである。

□七月の東帝科學特輯號、東中秀雄
氏の「中國溫泉雜記」について宇都
宮農林専門の山崎百治教授より、長
江の兩側にある湯泉鎮、湯水郷の温
泉は東亞同文書院在職當時、實地調
査をして化學分析を行はれたことが
「支那研究」に掲載のよし通信があ
つた。

□今日ではわが領土の最西端に位置
してゐる對馬で、考古民族學的調査
が行はれてゐるが、一行の水野清一
氏からつぎのごとき便りがあつた。
何分忙しく宿をかへてをりますの
で落着かせん。一昨日梅原氏が去ら
れ、あとを三上、有光、森真三郎氏
等と小生の八人、それに縣廳から一
人、十トンの船、船には船長一人、
機関長一人ひみます。これと言葉通り
の津々浦々をめくつてゐます。どこ
も箱式棺に埴輪と祝部を出す遺蹟で
すが、島だから小さいのはやむをえ
しません。いままでも入江の多い兩島

間をとほつてみました。こんどに
西海岸に出て、いま木坂の海神社に
こゝろをもちつてゐます。これから
佐渡、佐須奈と北、東とまはりま
す。もう見えるはずの朝鮮まだ見
しません。(八月十四日)

□本誌だけに世の中のいろいろの條件
がむづかしいなかにも、定期的に出
せることを誇りとしてきたのである
が、最近やむをえない事情から残念
ながらちよいちよい間があくやうに
なつてしまつた。本號からやうやく
もとの歩みをとりにとす見透しがつ
いたので、讀者諸賢の御要望にこた
へることができらうと思ふ。

□爽秋が近づきました。出版不況に
めげない秋田屋の出版案内を申上げ
ます。中國關係のものでは、先づ貝
塚茂樹著「古代の精神」の再版、續
いて敷内清著「科學史における東洋
と西洋」宮崎市定著「東洋の近世」
少し遅れて青木正兒著「華國風味」
小川琢治著「中國地理學史研究」な
ど、御期待下さい。

制限のない書體型にしました。第一
號は一五〇頁です。うんとスケール
が大きくなつて東洋史、西洋史、國
史、考古學、地理學を包括したもの
です。

□被賣中のものでは、藤枝巖著「征
服王朝」橋本清著「中國文學思想論
考」松尾義海著「印度論理學の構
造」などがあります。

學藝九・十號 定價貳拾五圓

昭和二十三年八月廿五日印刷
昭和二十三年九月一日發行

編輯人 東方學術協會
代表者 吉岡 清
發行人 田中 太右衛門
印刷人 上野 清 司
大阪市阿倍野區阿倍野筋一三四
發行所 秋 田 屋
電話 天王寺 三三四番
振替 口座大阪五一四〇番
會員番號 A-101010番

奈良縣山邊郡丹波市町川原城
印刷所 天理時報社